

クレアロンドン事務所の2015年度新規赴任者研修として、ラグビー市(Rugby Borough Council)を訪問しました。

## 1. 概要

### <ラグビー市概要>

- Warwickshire 内の5つのカウンシルの一つ(右地図参照)、地理的に Warwickshire の中央に位置する。英国の地方自治体構成は、一層制の地域と二層制の地域が存在するが、ラグビー市は二層制の地域の基礎自治体にあたる。
- 英国第二の都市バーミンガムに近く、ロンドンまでも電車で1時間程度あれば移動できる。
- 2012年時点で人口10万人程度。人口は増加傾向にある。(出生率が高いこと(2011年度時点で3.8%)と、移民による人口増。移民は住民の8%を占める)
- ラグビーワールドカップ2015にあたり、ラグビー発祥の地としてイベントの開催、地域おこしを行っている。



Warwickshire County Council  
ウェブサイト  
「Quality of Life in Warwickshire  
2014/2015」

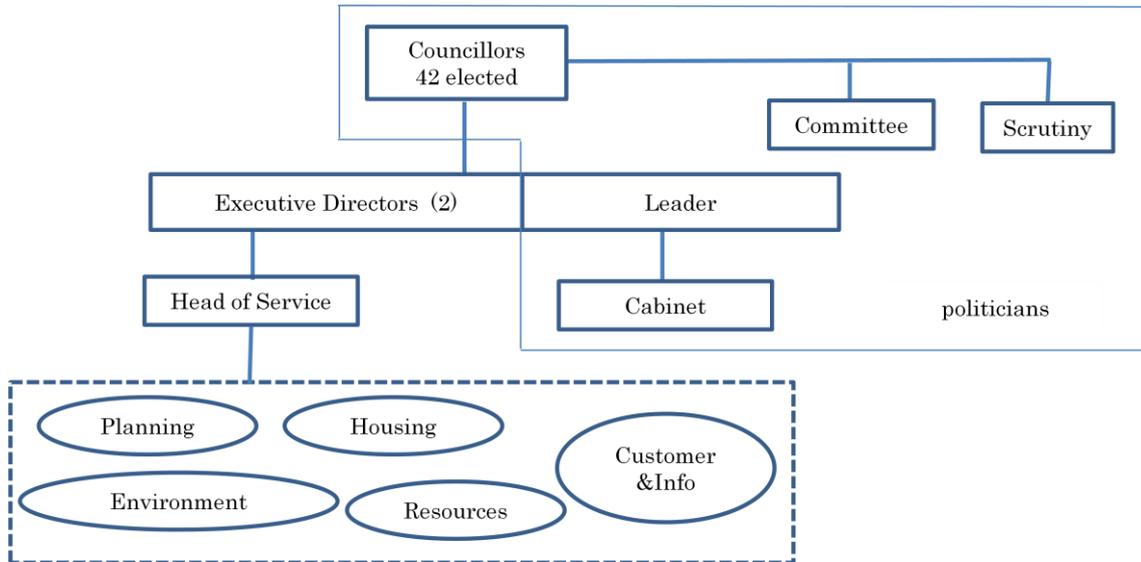
### <ラグビー市をめぐる状況>

Ian Davis 氏 (Executive Director、事務総長) によるブリーフィング

- 英国第二の都市バーミンガムに近いが、バーミンガムとロンドンでは大きな差がある。バーミンガムは100万人都市、ロンドンは800万人以上の人口を抱えている。英国はロンドン以外に国際都市がないと言え、英国政府は、複数の自治体を共同体にすることで意図的に大都市(圏)を作る方針を打ち出している。たとえば、マンチェスター市と周辺9自治体により形成される共同体として、「グレーター・マンチェスター合同行政機構 (Greater Manchester Combined Authority)」が先駆けとして数年前に誕生した。
- バーミンガムのベッドタウンでもあるラグビー市においても、共同体に入るか否か検討されているが、意見は分かれている。ビジネスを行う人は共同体に加わることをよしとする傾向にあるが、多くの人は関心がない。これは、33万人の隣接都市であるコベントリーについても同様である。
- ラグビーの主な産業は物流。戦前は重工業都市であったが、現在はイングランドのほぼ中央に位置するという地理的条件から、物流拠点となっている。
- 二層制の基礎自治体として、住宅(社会住宅を含む)、計画、公園、レジャー、文化、埋葬、ゴミ・リサイクル、清掃、環境、タクシーライセンス等を担っている。広域自治体(ラグビー市の場合は Warwickshire County Council) が社会保障、教育、交通(道路ネットワーク、修繕)を担う。

### <ラグビー市 議会とカウンスル（市）の運営>

- 42人の議員（公選）が在籍し、年に6回会議が開催される。
- 42人の議員のうち、半数が保守党。市長は公選ではなく議員による1年交代の持ち回り。この方針を変える予定はない（公選首長制を採用するなどの予定はない）とのこと。
- 本会議で任命されるリーダー（議員のうち最大党派の代表）が内閣を組織し政策に関する意思決定を行う。
- ラグビー市の運営形式については、参考として次の図を用いて説明がなされた。



### <ラグビーワールドカップ期間のイベント>

- ラグビーワールドカップは7週間にわたり開催される。開催スタジアムは、そのスタジアムで試合の行われる期間のみのイベントとなるが、ラグビー市では期間中7週間にわたり、ライセンスを受けた公式イベントとして、関連イベント（ファンゾーン（パブリックビューイング）の設置、2メートル大のラグビーボールの展示、大会期間前のフェスティバル、アート展示など）を開催する予定である。これは他にない試みである。

## 2. ラグビー市内視察

### <新ショッピングモール>

- 中心部から離れた場所に大型のショッピングモール（複合商業施設）が建設されつつある。アパレル等テナントは年内に順次開店する。主要幹線道路の近くにあり、車で買い物には非常に便利。人口が増え、若い家族も増えているため、こうしたショッピングモールの需要は大きく、雇用を拡大している半面、従来の中心地の商店街に影響を及ぼしている。



### <タウンセンター（中心街）>

- 郊外ショッピングセンターに集客を奪われつつあるものの、人口が増えていることもあり、まだ活気がある。日本の「シャッター商店街」のような状況ではない。
- フランチャイズの店舗が増えたが、まだ地域固有のカフェなどが経営している。
- 数店舗は店を閉じたままになっているところもあるが、タウンセンターの物件は他に比べ高額であるため、借り手がつきにくいという問題もある。

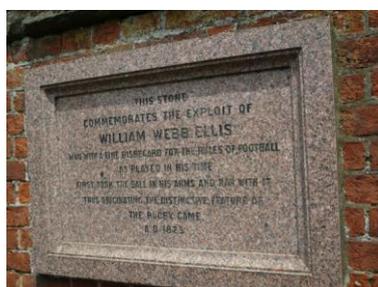


### <ラグビースクール>

- 私立の寄宿学校（自宅通学も可能）。11歳から大学進学前までの学生が所属。高い教育の提供から、現在は英国だけでなく、世界中から学生が集まる学校となっている。教育費は年間6,000ポンド以上で非常に高額。
- スポーツのラグビー発祥の地とされる。ウィリアム・ウェブ・エリスがボールを持って走ったことを元に、ラグビースクールの学生たちがゲームを考案した。学校のグラウンドでラグビーが始まったといえる。



ラグビースクール グラウンド



ウィリアム・ウェブ・エリス  
記念プレート



ウィリアム・ウェブ・エリス  
記念像

## 3. 意見交換・ディスカッション

### <各部署管理職とのディスカッション>

（カスタマーサービス）

- ICTを活用、市役所1階で窓口サービスは行っているが、対面対応は減らしている。代わりに、24時間コールセンター（外注）によるサービス等を行っている。

（住宅）

- 住宅供給に加え、建物の維持管理の許認可等を行っている。英国全体の状況と同様、住宅供給、特に借りやすい住宅（affordable housing：市場価格外（8割以下）で提供される住宅。公営住宅（social housing）を含む）の供給は課題となっている。公営住宅については、待ちの出ている状態。ウェイティング・リストを作っている。

( \*affordable housing の補足として、英国では市場に対する規制が日本に比べ低いため、価格が上昇しやすい。そのため、市場外の価格設定が必要、との説明があった。)

- 人口の増加に伴い住宅需要も増えている。新築するよりも安価で早いので、既存の公営住宅を修繕しながら提供している。地価が上昇しているため、オーナーが建物を建てずに土地の転売を図っている場合もある。(住宅を効果的に増やせない要因の一つ)
- 高齢化率も上昇しているため、高齢者向けの介護用住宅の供給も課題。住宅については、一般向けの住宅とは異なる安全配慮が必要となる。

(環境)

- 生活の質の確保が任務。ゴミの収集・処理だけでなく、生活に関する苦情・相談(騒音、落書き、駐車などで一般的に認められる行為を逸脱したもの)を受け付けている。

(資源サービス)

- 人事採用(労働組合対応や人材育成研修含む)、カウンスル・タックスの徴収、低所得者対応等を行う。

(その他)

- 人口は増加しているが、職員数は増やしていない。ICTを進めることで増加する業務に対応。ペーパーレス化を進めている。日本ではそれが進んでおらず、英国の20年くらい前の状況のままなのが不思議である。
- 英国も高齢化が進みつつあるため、世界中で最も高齢化の進む日本の取組について関心が高い。
- 英国全体の状況を反映して、ポーランド系移民が増えている。住宅街に食料品や日用雑貨を扱う小さな商店があるが、30年ほど前はアジア系(インド・パキスタン)移民が経営していた。現在は子の世代になり、子供たちは医師や弁護士など専門職についている。代わりに、新しく入ってきたポーランド系移民がそうした商店を引き継いで経営している。
- ポーランド系の移民は、当初は若い男性が出稼ぎに来ているのがほとんどだったが、最近は家族で移住してきている。これまでは大きな問題になっていないが、文化の違いや、ゴミ処理等日常の面で課題がでてきつつある。移民をどのように取り込んでいくかが課題。

### <議員との意見交換>

Leigh Hunt 議員, Michael Stokes 議員 (2人とも保守党、Stokes 議員はリーダー) 議員は12選挙区から3名ずつ選出。議員自身が住民でもあるため、住民にとって何が問題であるかを把握できている。

- 議員には定額の給与はない。議員としての業務時間(議会、出張等)に応じて報酬が支払われる。基本的に議員は他の職を持っており、議員報酬だけでの生活ではない。
- Leigh Hunt 議員: 選出されているのは小規模区。現在は560世帯ほどで2000人に満たないが、人口増加により2000世帯に増えることが見込まれている。パリッシュ議員でもあるので、今夜は教会で住民との集会がある。地元自治体を運営している、ためになっているというのがやりがい。以前は年齢が高めの男性議員がほとんどだったが、現在は年齢層が若くなり、女性も多い。

- Michael Stokes 議員：日中は会社に勤めており、会議などがある場合は、仕事を早く切り上げて出席している。（勤務時間の減る分、会社の給与は減るが、議員手当が支給されている。）議員の活動ができるのは、同僚の理解があつてこそであり、多くの人に会えることが議員の仕事の魅力である。

英国自治体の構成等については、当協会の公表資料「英国の地方自治」をご参照ください。

[http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/dynamic/search.html?publication=cj&include\\_blogs=100018&article=&country=&query\\_text=&and\\_or=or&categories=100597%2C100613%2C100604%2C100599%2C100611%2C100601&query=+%25](http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/dynamic/search.html?publication=cj&include_blogs=100018&article=&country=&query_text=&and_or=or&categories=100597%2C100613%2C100604%2C100599%2C100611%2C100601&query=+%25)